

日本内分泌病理学会 理事会 議事録

日 時： 2007 年 10 月 19 日（金） 11:00～12:10

会 場： ロイトン札幌 2階 クリスタルルーム D

出 席： 佐野 壽昭理事長、井上 金治、長村 義之、小澤 安則、覚道 健一、
加藤 良平、笹野 公伸、寺本 明、成瀬 光栄の各理事、
山下 裕人監事
オブザーバーとして上條桂一会長

欠 席： 高見 博理事、高野 加寿恵監事

議 題：

<審議事項>

1. 平成 18 年度決算案および平成 19 年度・20 年度予算案の件
2. 次次期学術総会会長候補者の件
3. 新評議員の件
4. 功労評議員の件
5. ホームページの件
6. 研究賞の件
7. その他

<報告事項>

1. 第 11 回学術総会の件
2. 第 12 回学術総会の件
3. 内分泌学会総会における JEPS 関連プログラムについて
4. その他

冒頭、佐野理事長から、欠席者からも委任状が提出されており、全員出席となり定款 16 条の定足数（理事現在数の 2/3 以上）を満たすので、本理事会は成立するとの報告があった。また、オブザーバーとして上條会長も出席することが告げられ、引き続き同理事長の司会により予定された議題について討議が行われた。

議 題：

<審議事項>

1. 平成 18 年度決算案および平成 19 年度・20 年度予算案の件

・小澤財務担当理事より、平成 18 年度は会計年度の改訂があり平成 17 年 10 月から平成 19 年 3 月までの 1 年半の長さになるので、会計内容は 1.5 年分、事業によっては 2 年分（この間、第 9 回（神戸）と第 10 回（東京）の 2 回の学術総会が開催されている）になるとの説明があった。平成 18 年度決算は、当期収支差額が約 77 万円の赤字になった。次いで、山下監事から監査報告があり、審議の結果、平成 18 年度決算案は承認された。

- ・同理事より、第9回および第10回学術総会の会計報告があり、次いで監事の監査結果が報告された。また、それぞれの会長からも補足説明が行われ、審議の結果、これら会計報告は承認された。
- ・同じく、すでに執行されている平成19年予算案について説明があり、追認の形で審議が行われ、平成19年予算案は承認された。当期収支差額は若干の赤字の見込みである。
- ・同じく、平成20年度予算案はほぼ前年通り組んだとの説明があり、審議の結果承認された。審議の中で、収入源である会費納入率が低いこと、また次期繰越金が年々減少していることが指摘され、これらの対応策が求められた。
- ・人件費（現在は5万円）の増額が提案されたが、他分科会の状況もみて検討することとなった。
- ・理事長から、学術総会の開催以外に学会としての事業をすることも社会的要請であり、こうした異分野の専門家が集まる学会ならではの研究事業を立ち上げてはどうかとの提案が示され、内分泌細胞癌、悪性褐色細胞腫等の悪性内分泌腫瘍を一つのテーマとしてグループを構成して活動していくことで意見の一致をみた。当面は学会としての予算は計上しない。

2. 次次期学術総会会長候補者の件

- ・理事長から、第10回、11回と臨床系の会長であり、第12回（2008年）の井上会長の後の次次期学術総会（第13回、2009年）は基礎系から会長候補が選ばれるのが適当であることが説明された後、審議を行った。その結果、山梨大学の加藤理事が会長候補に選出された。

3. 新評議員の件

- ・現在の評議員は36名で会員数（約170名）に比べてやや多いが、今後の会員の増加とより優れた演題の応募を期待することから、評議員を若干増加させることとした。理事長、理事から計8名の新評議員候補者の提案があり、審議の結果承認された。（その後、評議員会と総会でさらに3名の追加があり、新評議員は11名となった。）なお、評議員候補者の学会への参加実績などの資格、推薦、選出方法に関する内規がないことから、今後、必要な内規を整備することとした。

新評議員：

池田 秀敏（大原医療センター 脳外科）、伊東 正博（国立病院機構長崎医療センター 病理）、岩崎 泰正（高知大学医学部 内科）、大池 信之（昭和大学医学部 病理）、方波見 卓行（聖マリアンナ医科大学 内科）、佐藤 文俊（東北大学 内科）、柴田 洋孝（慶應義塾大学医学部 内科）、竹越 一博（筑波大学 基礎系）、田辺 晶代（東京女子医科大学 第二内科）、村田 晋一（埼玉医大 病理）、山下 俊一（長崎大学 基礎系）、

4. 功労評議員の件

- ・今回から発足した功労評議員制度に基づく候補者について、理事長から河合紀生子先生（長崎県健康事業団病理部）を推挙したいとの提案があり、審議の結果、承認さ

れた。

- ・成瀬庶務担当理事より、去る6月の理事会での審議に基づいて、功労評議員に関する内規、推薦書等を整備したので利用願いたいとのコメントがあった。

5. ホームページの件

- ・寺本広報担当理事から、新しい内規掲載や広告掲載も考慮してより充実したホームページを目指すとの報告があった。

6. 研究賞の件

- ・上條会長から、今回の研究賞には11人から応募があったこと、一次選抜の選考委員4人（会長、理事長、長村理事、覚道理事）が示され、理事会として承認した。また、二次選抜は全ての発表終了後となるため、その結果を理事会として事前承諾することが認められた。

- ・研究賞に関する規約について、研究賞に関する細則を中心に成瀬理事から説明があり、審議が行われた。

賞は基本的に研究者個人（筆頭演者）を対象とすることが確認された。奨励賞は若手研究者の育成を促す目的を担う。細則2.(2)の「基礎研究分野」は臨床研究も含むことから「研究分野」と改める。また、「若手奨励賞」は、「奨励賞」と書き改める。研究の背景等を勘案した賞を設けることも提案された。運用面では、選考委員の任命が事後承諾となること、会期中に二次評価を行った上で最終決定というプロセスでは理事会等での承認、決定は常に事前になること、選考委員は自分の関与する演題には評価をしないことが明記されていないことなどが指摘された。今後、研究賞に関する細則、内規などを修正し、持ち回り理事会等での検討を行った上で、次回理事会までに整備することとなった。また、学会賞のあり方については継続して検討していくことで了承された。

7. その他

- ・笹野理事から Endocrine Pathology 誌の購読について、同じ雑誌が2部相前後して送付されてくる状況がまだ続いているので、問い合わせを欲しい旨の要望があった。理事長から問い合わせることとした。

<報告事項>

1. 第11回学術総会の件

- ・上條会長から、ロイトン札幌にて2日間開催し、内分泌学と臨床の飛躍の会にした旨の報告があった。トロント大学 Kovacs 教授夫妻の2人の特別講演が目玉であること、シンポジウム1企画、クリニカルアワー1企画、一般演題40題、会長講演に加え、懇親会での橋本和夫先生の講演等の紹介があった。

2. 第12回学術総会の件

- ・井上金治次期会長から、第12回学術総会は2008年9月26日（金）、27日（土）に

大宮ソニックシティにて開催することになっているとの報告があった。プログラム委員および実行委員が紹介され、それぞれ了承を得た。また、企画等に提案を寄せて頂きたいとの要望があった。

3. 内分泌学会総会における JEPS 関連プログラムについて

・プログラム委員の 井上理事から、第 81 回（2008 年、青森、須田会長）内分泌学会総会における JEPS 関連プログラムについて報告があった。教育講演として「下垂体前葉の細胞学」、シンポジウムにおいて「分泌現象と生体膜」、クリニカルアワーにおいて「内分泌腫瘍の病理診断」等がとりあげられた。また、この秋から第 82 回（2009 年、前橋、森会長）のプログラム委員会が始まるので、意見をお寄せ願いたいとの要請が行われた。

4. その他

- ・理事長から、国際下垂体病理学会（佐野会長）が 2009 年秋に日本で開催されることになったとの紹介があった。
- ・長村理事から、第 19 回間脳下垂体副腎研究会（長村当番世話人）が 2008 年 3 月 29 日に開催されるとの案内があった。
- ・成瀬理事より、上記の内分泌病理学会の事業企画に関し、内分泌学会の臨床重要課題「悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成」が進行中で、内分泌病理学会としても協力お願いしたいとの申し出あり了承された。

以上

（記録：事務局 岸、理事長・庶務理事承認）